

第 25 回「整形・災害外科 優秀論文賞」のお知らせ

本誌編集委員会では、昨年一年間の本誌に掲載された投稿論文（論究・臨床・手術・経験・症例欄等掲載論文）を対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記の論文が小誌における 2020 年（整形・災害外科 第 63 巻）の優秀論文に決定いたしました。

整形外科手術操作による眼粘膜曝露の危険性

小関弘展ほか（長崎大学，保健科学分野）

〔整・災外 63：1701—1705，2020〕（12 号）

人工股関節全置換術（THA）術後の骨盤傾斜は、 術前の骨盤傾斜の状態によって変化するのか

— 脊柱矢状面アライメントの関係を含めた検討 —

古市州郎ほか（川崎医科大学，骨・関節整形外科学）

〔整・災外 63：1837—1842，2020〕（13 号）

選 者 評

2020 年の優秀論文賞は、本誌編集委員による厳正なる審査の結果、小関弘展先生の「整形外科手術操作による眼粘膜曝露の危険性」と、古市州郎先生の「人工股関節全置換術（THA）術後の骨盤傾斜は、術前の骨盤傾斜の状態によって変化するのか— 脊柱矢状面アライメントの関係を含めた検討—」に決定しました。

小関先生の論文では、THA および TKA 手術によって生じる浮遊微粒子量を計測し、手術時における医療者の体液曝露の危険性を指摘しています。「ウィズコロナ」の時代において、医療者の感染防止は喫緊の課題であり、重要かつタイムリーな研究成果だといえます。

古市先生は、THA の術前後における骨盤傾斜と脊柱矢状面アライメントの変化を詳細に分析しています。近年、脊椎-骨盤-下肢の矢状面バランスの重要性が、手術やリハビリテーションに関して強調されており、本論文はこの領域における有用な新知見を示しています。

有意義な研究をされた両先生のご努力に敬意を表するとともに、今後ますますのご活躍・ご発展を祈念いたします。

受賞のことば

この度は、栄誉ある「第25回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき、驚きとともに大変光栄に存じます。この研究にご協力いただいた方、興味を持って論文を読んでいただいた方々みなさまに心より感謝申し上げます。本テーマは、麻酔科医がブツブツ言いながら眼鏡についた血液を拭いていた場面をみて着想しました。看護の分野では職業感染リスクについて少しずつ注目されてきていますが、私を含めて外科医はそこまで配慮できていないことが多いと思います。今回、実際に術野周囲の微粒子を可視化してみると、思ったよりも多くの微粒子が遠方まで飛散していることが判明しました。ウイルスや細菌は血液・体液飛沫によって眼粘膜から感染する可能性があることから、本研究の結果が術者をはじめ手術室内のスタッフの危機意識を高めるきっかけになってもらえたら幸いです。今後も、整形外科分野で少しでもお役に立てるような研究を続けたいと思います。

小関弘展（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、保健科学分野）



この度は「第25回 整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき大変光栄に存じます。本研究は私の大学院時代が出発点となり始まった研究テーマの論文の一つです。THA 術前症例の骨盤傾斜から、術後経過を予測することを試みました。特にTHA 術後には脱臼やアライメント異常が問題となることがありますが、カップ設置は全症例で同じ調整ではなく、症例の特徴ごとに調整を行うことによりリスクの低減も期待されます。骨盤傾斜の論文をこれまでもいくつか報告させていただきましたが、このような形で日の目を見ることを大変嬉しく思います。心折れそうな日々になげずに自分に鞭打ち励んできて本当に良かったと思います。今回の受賞は、ご指導いただきました三谷 茂教授をはじめ当教室の多くの方々のご指導の賜物であると感謝しております。この経験を糧に、これからもより一層研究・臨床に邁進していきたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

古市州郎（川崎医科大学、骨・関節整形外科学）



優秀論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。

本誌編集委員会では今後も継続的に各年毎の掲載投稿論文を対象に「整形・災害外科 優秀論文賞」の選考を行ってまいります。読者皆様の活発な研究発表の場として、小誌を存分にご活用ください。

（整形・災害外科 編集室）